

第1回森町創生総合戦略策定推進委員会に係る意見対応表

No	意見等	対応可	回 答
1	災害時用備品等購入事業ですが、現状が34%で5年後に100%を目指しているということですが、7月の津波の時にアルファ米が無くて、給食センターで炊き出しをしておにぎりを作ったと話を聞きました。 私は日赤奉仕団に在籍しているので、おにぎり作りの招集がかかりましたが、私も避難の最中だったため行くことができず、駒ヶ岳だとか津波の被害のない地域の団員がおにぎり作りに参加しました。 後日、アルファ米は町で持っていたのではないかと、アルファ米があれば炊き出しをしなくてもよかったのにどうしたのか、私たちが日赤奉仕団で研修をするときには森町からアルファ米を使ってくださいということで町から貰って研修をしていました。 災害の時にはアルファ米はなかったのでしょうか。 アルファ米を各避難所に配っていれば炊き出しの苦労はなかったのに、これまでの防災の練習は何だったのかと思いました。 ここでみると34%達成していることになっているが、何をもって34%なんのでしょうか。	防災交通課	森町防災備蓄計画は、令和5年度から7ヶ年で行政備蓄（想定避難者数8,000人×3日分×40%）を完了する計画が制定されましたが、令和6年度に5ヶ年計画へ変更し（令和9年度完了）災害時の備蓄品等購入事業を進めております。これにより、令和6年度末の備蓄率が34%となっております。 町では令和8年3月現在、アルファ米を12,297食（54%）、カロリーメイトほか軽食を6,660食（74%）備蓄しておりますが、昨年7月のカムチャツカ半島沖地震の際には数日間の避難所開設を見据えた備蓄品提供と支援団体の協力を念頭に置いた初動判断が行われたところです。 しかし、この判断に関しては様々な課題が散見されたほか、避難者や避難所を運営する方々からの要望を踏まえ、「飲食物の提供に関する初動は備蓄品を活用する」よう避難所運営マニュアルに追記されました。 今後も、継続した避難訓練の実施を予定しており、目的や実施内容を検討し防災意識の醸成を図りたいと考えておりますので、今後も参加・協力をお願いいたします。